

学校評価趣意書

令和4年4月15日
尾道市立御調中学校

1 学校内外の状況

本校生徒は素直で元気であり、ボランティア意識も高い。基本的な生活習慣が定着している生徒や判断力・社会性等も身に付いている生徒も少なくなく、概ね落ち着いた環境の中で生活を送ることができている。

学力面でみると、全国学力・学習状況調査及び標準学力調査の結果から、2学年及び3学年ともに概ね全国平均値と同等の学力を有しており、さらなる成長が期待される場所である。しかし、正答率30%未満の生徒や学力の二極化傾向は今後の課題である。また、3年生は学力の二極化傾向も含め、特別な支援を必要としている生徒が多いという課題もある。ただし、素直さと活力がある生徒は多いので、見通しを持った計画的な指導を通して課題解決に取り組み、改善を図っていききたい。

このような状況の中、小中連携の一層の充実と連携型中高一貫教育の特色を活かした取組の改善・充実を図るとともに、12年間を見通した系統的・計画的な取組により、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成していききたい。今年度も昨年度に引き続き、しっかりと社会的資質や行動力を身に付けさせ、自らの言葉で夢を語り、志を抱いて未来を“そうぞう”(想像力、創造力)できる生徒の育成に取り組んでいきたい。



2 ミッション

夢を語り、志を抱いて未来を“そうぞう”できる生徒の育成

3 ビジョン

- 【 安心・安全で、生徒が夢と志を抱き、心豊かに生き生きと活動する学校 】
- 【 自ら学び、考え、判断し行動する生徒を育成する学校 】
- 【 心豊かに、自他を尊重し、共に学び、高め合う生徒を育成する学校 】

4 重点課題

- ① 語彙力、読解力の向上を軸に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。(知)
 - ・ 主体的な学習態度の育成を目指し、子供たち一人一人の学習進度や能力・関心に応じた授業開発(「個別最適な学び」と「協働的な学び」等)に取り組む。
 - ・ 全ての生徒たちの可能性を引き出すためのツールとして、ICTの効果的活用に取り組む。
 - ・ 委員会活動を中心に、生徒の読書量増加に向けた手立ての工夫に取り組む。
 - ・ 学力向上に係る正答率30%未満の生徒については、試験週間の「学力アップ講座」だけでなく、日々の授業での支援策を個別の指導計画等で示すなどして全教科で統一して取り組む。
- ② 生徒間での成長と、他を思いやる心を育成する。(徳)
 - ・ 「御調プライド(時を守る・場を清める・礼を正す)」を持ち、教職員と生徒による「学びの風土」づくりの徹底と深化に取り組む。
 - ・ 小中高連携や地域ボランティア活動の充実を図り、他を思いやる心の育成に取り組む。
 - ・ 配慮を要する生徒への対応など特別支援教育の視点を通常学級の指導に活かすよう取り組む。
 - ・ エリア活動の内容の充実を図り、生徒の自主性を向上させるための活動内容の工夫に取り組む。
- ③ 業務改善を志向し、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。(働き方改革)
 - ・ 行事の精選などへの取組を通して、業務改善に対する意識の向上を図る。
 - ・ 定時退庁日(水曜日)の実現に向けた取組(退庁時間の見える化等)を工夫する。
 - ・ 部活動顧問二人体制の意味を理解し、部活動業務の改善を図る。
 - ・ 年休取得10日以上の実現に向け、授業時数等の進捗管理を徹底する。